

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 247

2015年

11～12月号

## 行 事 案 内

### 11月手賀沼探鳥会

期 日 11月8日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 秋の深まりが見られる中、マガモ、コガモなどのカモ類、オオジュリンなどの冬鳥が戻ってきます。猛禽類のミサゴなどが見られるようになり、探鳥が楽しみの季節です。皆さんと多くの鳥を探してみましよう。

解 散 正午  
担 当 船津

### 12月手賀沼探鳥会

期 日 12月13日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 今年最後の定例手賀沼探鳥会です。手賀沼の水鳥が勢ぞろいし、ミコアイサも姿を見せてくれるでしょう。冬の猛禽類の常連ハヤブサ、ミサゴも雄姿を現し、田圃ではタゲリの群れも楽しみです。葎原のオオジュリンやベニマシコの声にも耳を澄ましましょう。毎年最も多くの鳥が観察できる季節です。手賀沼の鳥たちと少し早い年末のご挨拶を楽しみましょう。

解 散 正午  
担 当 桑森

### 11月、12月ピオトープ調査

期 日 11月5日(木) 雨天延期  
12月3日(木) 雨天延期  
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分  
案 内 11月はアオジ、タヒバリ等の冬鳥が見られるようになり、12月にはオナガガモ、コガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、マガモ、ツグミ等が見られるようになります。サザンカの花、カラタチ、ハゼの実、セイタカアワダチソウの花、ヨシ、ヒメガマの穂に晩秋、初冬の雰囲気を感じながら手賀沼ピオトープ周辺の探鳥をしてみましよう。12月は斜面林の紅葉が綺麗になります。昨年11月は17種、12月は24種の野鳥を観察しました。参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解 散 午前11時30分  
担 当 鈴木静治  
Tel : 080-3121-4757

### 11月、12月手賀沼定点カウント

期 日 11月07日(土) 雨天延期  
12月12日(土) 雨天延期  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
解 散 正午

担当 田中功、金子雅幸、船津登、桑森亮  
連絡先 桑森亮  
Tel : 04-7182-3149

---

### 伊豆沼・蕪栗沼探鳥会（再掲）

---

期 日 11月21日(土)～22日(日)  
集 合 8時頃我孫子駅 上野発8時54分、  
やまびこ 43号乗車を予定)  
交 通 新幹線及びレンタカー  
宿 舎 伊豆沼 ウェットランド 交流館  
TEL : 0228-33-2831  
参加費 35,000円程度 (JR 新幹線、レンタ  
カー等の交通費、宿泊費等)  
定 員 16名 (レンタカー4台)  
案 内 マガン、ヒシクイなどガンカモ類を  
求めてラムサール条約登録湿地で  
ある宮城県の伊豆沼・蕪栗沼に出向  
きます。  
夕日をバックにした数万羽のマガ  
ンの埒入り、ひらひらと舞い降りる  
落雁、早朝の一斉に飛び立つ様を目  
前にすると、誰しも自然の雄大さに  
感動を覚えると思います。鳥見をは  
じめたら一度は体験したい探鳥で  
はないでしょうか。マガンに混じっ  
たシジュウカラガンやカリガネを  
探してみるもの楽しみです。また、  
湿地周辺では猛禽類や冬の小鳥た  
ちもおおいに期待できます。  
(2012年の同探鳥会で観察された  
鳥：シジュウカラガン、マガン、オ  
オヒシクイ、オオハクチョウ、各種  
カモ類、猛禽類など38種)  
持 物 観察用具、雨具、防寒具(\*)、寝間  
着、洗面用具、常備薬等  
\*夕暮れ時、日の出前に戸外で観察  
するため、相当冷えますので防寒対  
策を十分にして下さい。  
申 込 桑森亮まで  
Tel/Fax : 04-7182-3149  
担 当 小澤、桑森

---

### 小見川・神之池・江戸崎探鳥会

---

期 日 12月23日(水・祝) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前8時  
案 内 正月の第一日曜日に開催している  
新春探鳥会は、第一日曜日が正月  
三箇日と重なるために、年末開催  
となります。探鳥コースは例年ど  
おり、小見川の葭原～神之池(神  
栖市)～江戸崎(稲敷市稲波干拓  
地)です。猛禽類から水鳥まで多  
くの種類を楽しめ、<認めた鳥>  
は2年連続で55種が記録されて  
います。小見川のタカ類、神之池  
のミコアイサ・カモ類たち、江戸  
崎では年々数が増えているオオヒ  
シクイやほかの鳥たちとの思わぬ  
出会いに期待しましょう。  
交 通 自家用車分乗、便乗者は一人1,500  
円を運転者にお渡しください。申込  
の際、自家用車を提供可能な方はそ  
の旨ご連絡ください。  
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途  
中購入可能)  
申 込 松田幸保まで  
Tel/Fax : 04-7182-8307  
担 当 松田、桑森

---

### 芋煮会 & 谷津田探鳥会

---

年末恒例の一大イベント芋煮会は32年連  
続開催中であり、昨年は72名もの方々が集  
い盛大でした。探鳥会には中々参加出来ない  
がこの会だけは何ともしようと云う方や、毎回  
ご夫婦で参加される方、お孫さん共々参加し  
て頂く方々などで、楽しいひと時を皆さんと  
共有しています。アットホームに気軽に楽し  
く...が我孫子野鳥を守る会の基本姿勢です  
し特徴でもあります。  
今までは参加出来なかった皆様には、今年  
是非ご参加頂きたいと思っております。

今年も岡発戸・都部の谷津田で冬鳥を楽しみながら会場へ向かう探鳥組と、会場へ直接出向く直行組に分けて募集致します。どちらのコースに参加されるか決めた上で、申し込み願います。会場ではいつもの様に、各奉行が自慢の料理で皆さんのお越しをお待ちして居ります。

期 日 12月20日(日) 雨天中止

集 合 探鳥組：成田線東我孫子駅前

午前9時

直行組：午前10時30分までに

会場へ

会 場 五本松公園 ふれあいキャンプ場

参加費 大人1,500円、小・中学生500円、  
幼児無料

持 参 ご自分の汁椀や箸があると、区別が  
ついて便利です。  
酒類の持ち込みなど大歓迎です。

申 込 金子雅幸まで

Tel：04-7133-6944

\* 定例探鳥会の折にも、申込みを承ります。  
\* 各奉行の皆様は、改めての申込みは不要です。

\* 締 切 12月15日(火)

## 第15回野鳥サロン

第15回野鳥サロンは、「手賀沼付近の身近な野鳥の生態」と題し、主な野鳥の生態について、会員の撮影した生態写真などをベースに参加者が和気あいあいに話し合い、野鳥に対する知見をお互いに深めようとする企画です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

現時点で対象としている野鳥は、

キジ、ホオジロ、オオバン、メジロ、シジュウカラ、スズメ、カイツブリ、ツグミ、オオヨシキリです。

日 時 11月19日(木) 9:30~11:30

場 所 我孫子北近隣センター並木本館  
多目的ホール

テーマ 「手賀沼付近の身近な野鳥の生態」

会 費 一人300円(茶菓代ほか)

担 当 青木典子、石渡成紀、間野吉幸

締切日 11月13日(金)

申込先 石渡成紀まで

Tel：04-7139-6545

## 手賀沼親子ふれあい探鳥会

期 日 11月29日(日) 雨天中止

集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前

午前9時(バスで移動20名)

手賀の丘公園どんぐりの家前

午前9時30分(20名)

コース 手賀の丘公園~手賀沼~手賀の丘公園です。

解 散 正午

案 内 一般市民を対象にして当会会員が山野と水辺の鳥を案内し、子供に探鳥の楽しみを伝える親子探鳥会です。

参加者全員に「カラー写真入り野鳥チェックリスト」を進呈。

更に野鳥ビンゴゲームで特製野鳥カードや野鳥ぬり絵セットをゲットできます。

会員の皆様もお子さんやお孫さんを誘ってぜひご参加ください!

参加費 無料

定 員 40名(小学生以下は保護者同伴)

申 込 野口隆也まで

電話/FAX：04-7163-7898

担 当 間野、古出、船津、小澤、類地、野口(隆)

## 統一クリーンデイふれあい清掃

手賀沼ふれあい清掃と美手連統一クリーンデイに参加しましょう!

期 日 12月6日(日)

雨天の場合12月13日(日)に延期

集 合 手賀沼公園多目的広場 8時45分  
 行事予定 8:45~9:00 受付  
 9:00~9:15 開会式  
 9:15~10:30 清掃  
 10:30~11:00 閉会式・参加  
 記念品の配布、ジャンケン大会  
 清掃作業コース 仮「根戸新田Bコース」  
 手賀沼公園～根戸新田（沼側歩道下）  
 担 当 小澤  
 持 参 軍手、火バサミ（会で準備します）  
 汁椀・箸（豚汁が昨年に引き続き  
 ふるまわれます）

## 11月役員会案内

日 時 11月8日(日) 13:00~16:00  
 場 所 水の館 3階研修室  
 議 題

2016年度上期行事予定について  
 会報248号掲載予定記事について  
 芋煮会と谷津田探鳥会について  
 第2四半期会計報告について  
 第16回「野鳥サロン」について  
 報告事項

・あびこ市民活動メッセ出展実施  
結果

・JBF2015出展等実施報告

・対外対応状況ほか

その他（議題のある場合は桑森  
までご連絡ください）

## 行 事 報 告

### 8月手賀沼探鳥会

日 時 2015.08.09 8:00~11:15  
 曇りのち晴れ 微風 31

サマータイム制適用のため、ヒドリ橋から  
 始まる7月と同じコースで実施しました。

下見の7日まで、「猛暑日連続8日」とい  
 う記録破りの酷暑で、当日はいくらか雲天と  
 はいえ、少しバテ気味の身体には酷な探鳥に  
 なってしまいました。

ヒドリ橋下の大津川や河口脇の渡処(ワ  
 ンド)には、外来植物(ナガエツルノゲイトウ)  
 が繁茂し見慣れた風景が一変していました。  
 水際の植生の変化が水辺の野鳥へ少なから  
 ず影響が出るのではと心配です。

先月まで賑やかな鳴き声のオオヨシキリ、  
 セッカの声も無く静寂そのものでした。

北千葉導水ビジターセンターでは、タイミ  
 ングよくハヤブサが狩りから飛来してくれ  
 て、鉄塔の最上部での食事の様子を楽しみま  
 した。

浅間橋のヨシゴイは、ねばってみました  
 が、遂に姿を見せずじまい、代わりにオオバンを  
 今回の探鳥会でやっと認められました。

市のプレミアム商品券の直接販売日と生  
 憎重なってしまう、集合場所やら帰路渋滞な  
 ど、暑い中、参加者の皆様にはご苦労をお掛  
 けしてしまいました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガ  
 モ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサ  
 ギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバ  
 ン、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤ  
 ブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シ  
 ジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、  
 オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、  
 ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計  
 28種 番外 カワラバト

<参加者>古出洋子、船津登、北崎正典、野  
 口隆也、村井みとい、松田幸保、村瀬和則、  
 相良直己、鈴木浩、間野吉幸、千葉洋、染谷  
 迪夫、金子雅幸、桑森亮、木村稔、田丸喜昭、  
 松本葉子（担当）松本勝英 計18名

## 8月手賀沼定点カウント

日時 2015.8.8 9:00 ~ 12:00

曇り時々薄日 東風 31

連日の猛暑が一転、曇りベースの風が心地よい立秋の一日。

沼の上には、相変わらず鳥の姿は殆ど見当たらない。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	6	2	8
カルガモ	10	20	30
カイツブリ	2	2	4
カワウ	50	35	85
アオサギ	3	3	6
ダイサギ	3	3	6
チュウサギ	0	9	9
コサギ	1	1	2
オオバン	0	1	1
合計	75	76	151

<調査者> 田中功、桑森亮、船津登、金子雅幸 計4名

## 8月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2015.8.6 8:30 ~ 10:00

晴れ 弱風 32 ~ 39

酷暑、晴天の日が続く中、沼には水鳥少ない。沼岸にはカイツブリ、カルガモ、カワウが見られる程度。草の茂るピオトープでは、ホオジロが木の頂上で囀り、オオヨシキリが葦、柳の木の間を動き回り、カルガモが池を泳ぐ。稲穂の出た田ではコブハクチョウの親子が稲を食べながら休み、チュウサギが畦道を歩き獲物を探し、田の上を飛ぶアオサギ、ツバメ、ハシボソガラス、スズメ、ハクセキレイが、更に上空をトビが滑空する。夾竹桃、カンナの咲く民家近くの斜面林からはウグイスの囀りが聞こえる。暑いせいか散歩する人は少なく、時々自転車を通る位。堤防、公園の除草をする人あり。沼には調査するポート2隻あり。観察した野鳥14種63羽、他に木の花実4種、野草の花実12種、蛙2種、蟬4種(アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニ

イゼミ、ツクツクボウシ)、蝶コムラサキ、ウラギンシジミを含め5種、蜻蛉ナツアカネを含め3種、甲虫3種、蜂2種、バツタ2種、蜘蛛1種を観察しました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、チュウサギ、トビ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、オオヨシキリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計14種63羽

<調査者> 鈴木静治、金子雅幸、池田日出男、船津登、間野吉幸 計5名

## 9月手賀沼探鳥会

日時 2015.9.13 8:00 ~ 11:00

晴れのち曇り 強風 26

利根川水系に大きな水害をもたらした豪雨の影響か、手賀沼の水位は高く、水も濁っていた。

賑やかだったオオヨシキリの声は聞こえず、葛の花の芳香が秋の訪れを告げていた。

夏鳥と冬鳥との端境期であったが、ヒドリ橋では若いカワセミの が一緒に、電柱の上には大きな獲物(ネズミ?)をわしづかみしたチョウゲンボウの豪快な食事シーンが観察できた。

前日多数のサギ類が観られたということで、足を伸ばしたフィッシングセンター対岸では、稲刈り最中の田に30羽超のチュウサギ。行き来するコンバインには全く動じず探餌していたが、上空にトビが飛来すると一斉に飛び立ち、舞い上がり舞い降りる白鷺達の姿は、有名な宮沢賢治の童話の一節を思わせて美しかった。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、オオバン、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計28種  
番外 カワラバト

<参加者> 間野吉幸、渡辺公子、類地佑子、野口隆也、小澤淳宏、村瀬和則、木村稔、鈴

木静治、北崎正典、村井みとい、千葉洋、松田幸保、船津登、北原建郎、小林博之、宮下三禮、佐藤弘美、玉井修一郎、石井俊子、桑森亮、田丸喜昭、小玉文夫、石渡成紀、常盤孝義

(担当) 小林寿美子、野口紀子 計 26 名

## 9月手賀沼定点カウント

日時 2015.9.5 9:00 ~ 12:00

曇り時々薄日 微風 28

ヒドリ橋上流の田んぼで、20羽強のチュウサギ(?)が乱舞する姿が観察された。(判別できなかったためカウントには記載せず。)

下沼でサシバラしき鷹が2羽舞っていたが、これも遠すぎて判別不能だった。

稲刈りが進み、チュウサギなど多数集まっている光景が見られた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	1	15	16
カガモ	36	18	54
カイツブリ	3	2	5
カウ	62	63	125
ゴイサギ	3	0	3
アサギ	5	5	10
ダイサギ	15	6	21
チュウサギ	9	32	41
コサギ	8	8	16
バン	1	0	1
オバン	0	4	4
合計	143	153	296

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

## 9月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2015.9.3 8:30 ~ 10:30

曇り 無風 26 ~ 28

最近の天候不順な日の中の曇りの日で無風な天気のため、この季節にしては多種、多くの鳥が観察出来た。沼の水鳥は少なく、沼

岸を飛ぶカルガモ、カウ、コサギが見られた程度、水田は稲刈りが始まるようになっているところで、まだ黄金色のカーペット状で、畦で餌探しのチュウサギ、その上を囀りながら飛ぶセッカ、またキジバト、ハクセキレイが飛ぶ。草の茂るピオトープではホオジロが囀り、桜の木で餌獲りするツツドリ、池を泳ぐカルガモ、木の茂みで鳴くシジュウカラが観察出来た。田とピオトープの間を行き来するスズメ、ダイサギ、ハシボソガラスも見られた。範囲外であるが、手賀沼柏側の森の上を飛ぶ約 200 羽のハシブトガラス、沼上空を巡回する 3 羽のサシバも見られた。

観察した野鳥 16 種 115 羽。他に木の花 2 種、実 6 種、野草の花 18 種、実・花穂 12 種、小動物 1 種、蛙・トカゲ 2 種、蝶 11 種、蛾 2 種、蜻蛉 5 種、蝉 2 種、甲虫 8 種、蜂 1 種、蠅 5 種、バッタ 4 種、蜘蛛 4 種も観察出来ました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、キジバト、カウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ツツドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、セッカ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 16 種 115 羽

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、池田日出夫、蒲田知子、船津登、金子雅幸 計 6 名

## 野田周辺探鳥会

8月30日

### [幹事報告]

秋の渡りのツツドリを見る目的で企画された探鳥会。前日の曇り予報は雨まじり予報に変わっていたが、雨が落ちてこないことを期待して出発した。

最近ツツドリの飛来で知られるようになった「野田市スポーツ公園」の駐車場に着くと数人のカメラマンがいて、ツツドリがいることが分かる。日曜日なのでカメラマンが多いのではないかと危惧していたが、雨予報のせいかなかったのは幸いだった。

じきに上空にツツドリが姿を現しサクラの木に止ったが、それから見つけるのが苦労だった。先着カメラマンのそばに行く人、止まったと思われる木に近づいて探す人、近くの利根川の堤防上から観察する人に自然に

分かれてツツドリ専科の探鳥が始まった。曇り空の今日は、堤防上からが一番の観察ポイントだったと思われる。

次々に飛ぶツツドリを 1 時間半近く楽しんだ後、鳥合わせをする「三ツ堀里山自然園」に向かった。ここは下見段階から鳥は期待できなかったが、遊歩道を歩いてミニ里山の自然に接してもらった。ちょうど雨が降り出し、グッドタイミングの鳥合わせとなった。

所要時間は手賀沼探鳥会と同じ 3 時間だったが、認めた鳥は 15 種+1 と、まさにツツドリに特化した探鳥会だった。涼しさに救われた。

< 認めた鳥 > カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、ツツドリ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 15 種 番外 カワラバト  
< 参加者 > 相良直己、中西榮子、井上正、野口隆也、船津登、吉田隆行、小玉文夫、古賀嗣郎、桑森亮、間野吉幸、中野久夫、池田日出男、松本勝英、渡邊俊文、中根忠、阿保進、天野正臣、天野睦子

( 担当 ) 金子雅幸、松田幸保 計 20 名

---

## 白樺峠・乗鞍探鳥会

9 月 23 日、24 日

---

### 天空のパラダイス

#### 眼に残る黄金のジュウタン

宮下三禮

シルバーウィーク最終日の早朝 6 時半、会員 16 名が白樺峠と乗鞍岳へ向けて我孫子を出発しました。

関越、圏央、中央、長野自動車道を経て松本へ。渋滞も無く途中で昼食を調達して野麦街道を走り白樺峠に到着したのは 12 時半頃でした。

タカ見広場で昼食を摂りながら早速観察を始めると、先ほど広場の入り口付近で私達を出迎えてくれたアサギマダラが、目の前を飛んでいき、ベンチの前のブッシュではジャッジャッとウグイスが笹鳴き(?)をしながら動き回って私達を誘っているようでした。しかし、白い腹を一度見せただけで姿は

見えませんでした。

稜線に目をやっていると、「タカだ」と一声、雲の中に黒点がひとつ見る見るうちに姿を現し、「ハチクマだ」、「サシバだ」と声が響く。雲間からポツンポツンと現れ頭上をあっという間に通過して行く 2 羽、3 羽。流れるように消えてしまう。残念ながら今回はいつか見た鷹柱は見られませんでした。

2 日目の朝、まだ薄暗い内に乗鞍高原 3 滝の 1 つ「善五郎の滝」へ。昔釣の名人善五郎が大きな岩魚に引き込まれて見つけ、この名前が付いたといわれているそうです。乗鞍岳を背景にした雄大な瀑布にしばし感動しました。

道路はよく整備されていて、入り口からゆるやかな登りが続き、熊予防の鐘を鳴らしながら登っていきます。傍らにノリウツギが良く見られ、この幹から和紙を漉く時ののりを作る事を知りました。滝を見て旅館に戻ると、前の広場のカラマツの木に小鳥が鈴なり「コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、ゴジュウカラ」カラの混群とはよく言いますがバラけることなく食事中でした。こんなに集まっているのを観たのは初めてでした。

帰りに旅館の玄関に、カラマツ(?)の小さな松かさで作られた小鳥が数羽飾られていてとても心が和みました。

いよいよ 2 日目の本番「乗鞍岳」へ出発です。バスは乗鞍エコーラインを走り豊平へとカーブ、カーブの連続です。

カーブを曲がるたびに黄葉のジュウタンが現れます。緑のハイマツから流れ落ちるようにダケカンバの黄色いジュウタンが続き、人口では決して作れない広さと雄大さが素晴らしいです。ハイマツの緑とナナカマドの赤、そしてカンバの黄色、桜の赤、もみじの赤、ミズナラの黄色、例年 9 月中旬に山頂で色付きが始まり、下旬、10 月上旬にピークとなるそうです。その鮮やかさは高原内から見上げても帯状にはっきりと判るほど、紅葉前線は徐々に高原に向かって降りているのが判ります。

紅葉の山々の先に槍ヶ岳の穂先が見えました。豊平は小雨でしたが、風もさほど無く、雨具を着て出発しました。ホシガラスを見て大黒岳を目指して階段を登る途中でずっこ

けてしまい、雄大な眺望を見逃してしまいました。カヤクグリもみのがして、おまけに展望台での昼食は残念なことに休館でした。

帰りのバスの中から眺めた小雨に煙る紅葉の美しさ、また訪れたいものです。

帰りはいつもの道の駅「風穴の里」で休みお土産を調達して、途中トイレ休憩をとりながら、渋滞も無く予定よりも早く帰宅出来ました。

久しぶりの探鳥会で浮かれすぎ、小石に躓き怪我をしてしまい、皆様にご迷惑、ご心配をおかけてしてすみませんでした。

とても楽しい探鳥会でした。

### 【幹事報告】

初日は晴れの好天に恵まれ、予定通り 6:30 に我孫子を出発。途中、三好 P A・諏訪湖 S A を経て正午に目指す白樺峠に到着した。

健脚組と一般組に分かれ標高 1600m のタカ見の広場に陣を取った。15:40 までサシバ、ハチクマ、ノスリ等のタカの渡りを観察した。時々タカが頭上を飛来し、イナバウワー状態も経験したが、残念ながらタカ柱は見られなかった。地元の速報によるとこの日は 224 羽、前日は 1584 羽で 1 日の差であった。夜は天然温泉で身体を癒し、「滝見館」の夕食を楽しんだ。

翌朝、善五郎の滝を見学、旅館の周囲では一時カラ類の混群に囲まれ、早朝探鳥が大いに盛り上がった。

9:00 に旅館を出発、一路乗鞍畳平を目指した。バスで登る途中の紅葉は素晴らしかった。10:00 過ぎから天候が曇りから時々霧雨になり、ライチョウの期待が高まる中、大黒岳の登頂に挑戦した。風と小雨の中、ホシガラス、イワヒバリ、カヤクグリ等は多くの方が観察することができたがライチョウには遭遇できなかった。

12:30 に畳平を出発、道の駅、双葉 S A、三好 P A を経由し、19:30 頃我孫子に到着した。

< 認めた鳥 > キジバト、アオバト、ハリオアマツバメ、アマツバメ、ハチクマ、トビ、サシバ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、エナガ、ゴジュウカラ、ジョ

ウビタキ、イワヒバリ、カヤクグリ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 27 種  
< 参加者 > 津村勝吉、中根忠、渡邊俊文、船津登、浅野利幸、仲澤成二、古賀嗣朗、木村稔、村井みとい、宮下三禮、天野睦子、野口洋子、弘實和昭、弘實さと子、間野吉幸（幹事）野口隆也 計 16 名

---

## 三 番 瀬 探 鳥 会

---

10 月 4 日

~ 探鳥開始早々に

100 羽以上のミヤコドリ ~

中根忠

10 月 4 日、10 時半ごろ「ふなばし三番瀬海浜公園」に到着。天気は、晴！ 絶好の条件です。

千葉県船橋市にある「ふなばし三番瀬海浜公園」は、いまでは日本一のミヤコドリ渡来地となっているそうです。

ミヤコドリは、かつては、九州地方を中心に冬鳥として飛来し、日本全国の総個体数は、500 羽前後の飛来といわれており、稀にしか見られない鳥だったので。

最近、何故か？三番瀬に集結するようになり、他の地域での観察例が少なくなっているとのこと。

今年も多くのミヤコドリが三番瀬に飛来しており、「千葉県野鳥の会」と「日本野鳥の会」開催の「三番瀬の自然観察会」(2 月 1 日)で観察されたミヤコドリの総個体数は 347 とのことで、その後も増え続け、風聞では、今年、最大で 370 羽が飛来しているようです。

そのため、私の今回参加の主目的は「たくさんミヤコドリに会える」ことでした。この探鳥会の幹事さんの事前調査の日には、ミヤコドリに会えなかったとのことで、今回の「三番瀬に集合する時間を前回調査の時間より 1 時間、早めた」とのことなので、なおさら会いたいと願っていました。

さて、三番瀬の海岸に下り海岸の東側の突堤に行きました。ここからが本格的な探鳥の開始です。すると、この突堤の左側のコンクリートの上に 100 羽以上のミヤコドリの群れが羽を休めています。

幹事さんの目論見どおり三番瀬の集合時間を 1 時間早めた成果が直ぐに出てきました。突堤の先で、あちこち探鳥をしていたら、モーターボートがこちらにやってきました。ミヤコドリの近くにモーターボートがやってくると、ミヤコドリたちは、いっせいに飛び立ちました。おびたしいミヤコドリが波の上を舞う光景は、とても見事なものです。そのうちの数羽のミヤコドリは、私たちの近くを飛んでくれました。

到着早々、お目当てのミヤコドリに会えて大満足です。ミヤコドリは遠くを巡回して三々五々、突堤の右側に集まり始めました。突堤からその場所は遠いので、突堤から海岸線に降りて、海水に浸りながら、その場所に移動しました。そこには、ミヤコドリのほか、オオソリハシシギ、ハマシギ、トウネン、オバシギ、コオバシギなどのシギたちが採餌していました。干潮時なので、潮が引くにつれて、観察場所も鳥に向かって前進できます。かなり近くで探鳥できて幸せなのですが、残念ながら珍鳥はいないようです。それでも、オオソリハシシギの数羽は、とても近くに来てくれてうれしい限りです。

私は、飛翔するミヤコドリやオオソリハシシギが撮影でき、ほぼ目的が達成できたので、午後 1 時ころには、涼しい松林に退避して涼しい風に吹かれていました。

多くの人たちは熱心に 2 時ごろまで海岸で探鳥をしていました。

皆さん、満足そうな様子で帰路につきました。とても楽しい探鳥会でした。

幹事さん、ありがとうございました。

#### 【 幹事報告 】

天気は晴れ、気温 27 、参加者 16 名。参加予定者は、初めは 10 名でしたが、10 月 2 日(金)の「友の会」の三番瀬探鳥会が中止になり、参加者は、16 名になりました。我孫子駅などから電車・バスを利用し、10 時 45 分頃に船橋海浜公園に到着しました。浜辺に出ると、東側の堤防に、フィールドスコープを覗いている多くの人々が認められました。海の方は、干潟がまだ少ないので、皆がいる堤防へ行きました。行く途中、トビが低空で飛んでいます、近くで見ると、きれいで迫力が感じられました。

堤防の先端部から、防波堤で休む百羽以上

のミヤコドリとそれ以上のカワウの群が見られました。

陽ざしが強いので、松の木陰で昼食をとり、海の方へ向かいました。干潟には、ハマシギ、オオソリハシシギ、ウミネコが群れており、その中にオバシギ、コオバシギが、数羽動き回っています。オバシギとコオバシギを見分けるのは、難しかったです。ウミネコより大きいセグロカモメも見られました。また、干潟より海の方には、ミヤコドリが群をなしています。潮が引くにしたがってカメラマンなどは、干潟に近寄って行きます。オオソリハシシギは、人をあまり恐れず浜辺で採食していました。

14 時 35 分のバスで、船橋海浜公園を後にし、帰路につきました。

< 認めた鳥 > キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、イソシギ、オバシギ、コオバシギ、ハマシギ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 計 20 種  
番外 カワラバト

< 参加者 > 小澤淳宏、相良直己、野口隆也、桑森亮、中根忠、大隅政孝、岩田孝之、岩田マキエ、阿保進、古賀嗣朗、古賀道子、松田幸保、村松寿夫、丸嶋紀夫

( 担当 ) 金子雅幸、船津登 計 16 名

---

## 第 14 回 野鳥サロン

9 月 20 日

---

第 14 回野鳥サロンが、近隣センター並木本館第 3 会議室で開催されました。

今回の内容も鳥名に関してですが、少し趣向を変え、鳥名の由来・いわれとその変遷です。

資料として、定例探鳥会でお馴染みの 20 種を選びその和名の由来や変遷を図書館蔵書をもとにした資料を配付しました。

最初に「標準和名」の表記に対し「現在のところ標準和名なるものはない」とのご指摘から一気に盛り上がり行きました。

普段から語っている「鳥名」には、意外にも万葉集、古事記など古典に結構多く登場していること、江戸時代に一気に種別同定が行われたこと、多彩で愉快的な方言名、異名があ

ることなどが紹介されました。

また最近、メディアで話題になっているアホウドリ、トキ、コウノトリも取り上げられ、いずれも絶滅状態から保護政策のお陰で回復しつつあり、野生放鳥にまで至っていることに対し、保護関係者への感謝の気持ちが共有されたサロンでした。

<参加者> 古出洋子、間野吉幸、小澤淳宏、木村稔、池田日出男、松田幸保、松本葉子、野口隆也、田中功、石井俊子、関口小夜子、畠中暁美、青木典子、桑森亮、(担当) 類地佑子、六角昭男、松本勝英 計 17 名

## 第 2 回あびこ市民活動メッセ

9 月 26 日、27 日

我孫子市で活動する市民団体が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表する場として企画された“あびこ市民活動メッセ”の第 2 回が、昨年に引き続き 9 月 26 日(土) - 27 日(日)の二日間にわたり、我孫子駅前の“けやきプラザ”で開催されました。

本年度は、第 1 会場(ふれあいホール)、第 2 会場(エントランス広場)、第 3 会場(アビシルベ)に分かれ、公益活動団体、造形活動団体、演技演奏団体が、それぞれの活動成果の発表を行いました。

第 1 会場ふれあいホールでは、33 の公益団体がフロアにブースを構えて成果の発表を行い、ステージ上では演技演奏発表が行われました。

当会は、ブース No.16 で来場者参加型の「野鳥写真のスライドショーによる鳥の名当てゲーム『この鳥なあーに?』」を出展し、来場者に楽しんで頂きました。

手賀沼周辺の身近な野鳥写真 10 枚を 1 セットにした、間野会長製作の 4 組のスライドショー「鳥の名当てゲーム」にチャレンジして戴きました。成績優秀者には、当会特製野鳥カードをプレゼントしました。

子供たちには、大人気で、何度も来場し、繰り返しチャレンジする子供たちも続出し、みるみる野鳥の名前を覚え、野鳥への興味を高めていただきました。

ステージ上では、参加各団体を紹介するスライドショーが放映されました。当会も「当

会のご紹介」のスライドショーを作成し、放映いたしました。当会の特徴や、活動をあまねく紹介するスライドショーは会員の青木さんの素晴らしいナレーションもあり、大好評でした。

夏休み期間中の酷暑の中での平日の開催であった昨年の反省を生かし、9 月末の土日の開催とした他、音の大きな演技演奏団体の発表は第 3 会場に移すなど多くの改善努力が見られ、より良い催しとなりました。

しかしながら、昨年同様、主催者の PR 活動不足は否めず、一般市民や子供たちの来場者が少なかった点が多少残念です。

(主催者発表来場者数: 2 日間計 3500 名) その中でも、当会ブースの、魅力的なゲームは、出展者の中で第一番の出色の出来栄と高い評価をいただきました。

その結果、当会ではこの催しを機会とした新入会員の獲得にも成功しました。

準備・運営にご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

なお、初日終了後、主催者によりレセプションが開催され、当会からも代表者が参加しました。(担当幹事 相良記)

## 9 月役員会報告

日 時 9 月 13 日(日) 12:30 ~ 15:30  
場 所 水の館 3 階研修室

### 1. JBF2015 出展計画について

各ブースの出展計画等について、担当役員の見解に基づき検討し、決定しました。概要は次の通りです。

#### (1) 海外招待国の案内と対応

- ・海外招待参加国、案内・対応の担当、責任・連絡体系等の検討状況を確認しました。
- ・海外招待国は台湾など 7 か国が出展する予定で、当会は台湾とモンゴルを担当し、送迎から出展等のサポートまで対応します。当会の担当は、台湾は間野が、モンゴルは野口隆也が中心に対応します。
- ・展示ブースの配置は、当会のブースは昨年同様「鳥博広場」で、台湾とモン

ゴルのブースは同じ「鳥博広場」に隣接して設営されます。

(2) ブース1「パネル展示&プロジェクター映写」の計画

- ・「身近な鳥たち、珍しい鳥たち」をテーマに、当会の紹介パネル及び手賀沼で見られる身近な鳥、遠出探鳥会や台湾探鳥会で出会った珍しい鳥の写真パネルを展示します。また、当会の紹介パネルは湖畔 BW テントでも掲示します。
- ・当会の活動と写真を紹介するスライドショーをプロジェクターで映写します。
- ・これに活用する写真や動画の提供について、ab-Yacho で会員に公募しています。

(3) ブース2「塗り絵とパタパタ工作」の計画

- ・昨年と同様「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」を実施し、参加者には記念品として写真カードを差し上げます。

(4) ブース3「庭に鳥を呼ぶ」の計画

- ・テーマを昨年同様「庭に鳥を呼ぶ」とし、鳥の餌となる草木や人工餌と身近な鳥の写真パネルを展示します。
- ・身近で人気のある鳥の種類を絞り、これらの鳥の好む木の実や花、人工の餌や果物を展示し、小鳥のペーパークラフトを木や餌のフィーダーに付けて飾ります。
- ・草木の標本は生け花方式や吊り下げ式など、見て楽しめるよう工夫をします。
- ・バードケーキのレシピ、紙パックやペットボトルを利用したフィーダーの作り方説明資料を配付します。

(5) 湖畔バードウォッチングの計画

- ・昨年と同様に河童噴水前展望デッキにテントを設置し、来場者にバードウォッチングを体験して貰います。
- ・メーカー提供と会員持参のスコープを10台程度設置し、テントにはパネルボード等を設営します。
- ・パネルボードには、当会の紹介パネル、

当会の写真入り野鳥チェックリストのA3サイズ拡大版等を掲示します。

(6) 船上バードウォッチングの計画

- ・昨年と同様に1日3便を運航し、受付、案内を担当します。乗船者には記念品として写真カードを差し上げます。
- ・パネルボードには、案内ポスターのパネル、写真入り野鳥のチェックリストA3サイズ拡大版(湖畔BWと同様)等を掲示します。

(7) 各種準備物と担当者

各ブースに備え付ける当会パンフレット、写真入り野鳥チェックリスト、写真カードなど、各種準備物品、消耗品や備品類とその担当を確認しました。

2. ほーほーどり 247号掲載予定記事について  
会報247号の掲載記事について、資料に基づき検討し、執筆担当等を決定しました。

3. 第15回「野鳥サロン」について  
テーマは「手賀沼付近の身近な野鳥の生態」を計画しており、詳細は決まり次第周知されます。

4. 報告事項、その他

以下の事項が報告され、一部の提案が了承されました。

あびこ市民活動メッセ(9/26日(土)、27日(日)開催)の出展準備状況と対応スタッフ

2015年度映写会(7/26)の開催状況

対外対状況他

当会パンフレット改定版の作成

「手賀沼周辺の鳥たち」検討タスクチームの活動状況

タスクチーム活動状況報告の中で、野鳥サロンについて、定例的なもの以外に臨時的なサロンを開催、運営できるよう提案され、了承されました。

以上

**～ 憧れの舢倉島での鳥見 ～**

鈴木静治

**舢倉島の特徴：**日本地図を見ますと能登半島の輪島から 50 k m 沖に舢倉島が浮ぶことがわかります。途中に無人島の七ツ島があり、海鳥の繁殖地になっています。舢倉島は東西 2km、南北 1km、周囲 6km の小島でほぼ楕円形に近い形をし、全島が殆ど輝石安山岩でできています。全体に低い台地で一番高い所で標高 12m、南側に舢倉港、民家、発電所、海水の淡水化施設、診療所等があり、中央に高さ 33m の白亜の灯台がすくっと立っています。北側と西側には、断崖が海にせまって、見事な板状節理を形成しています。島には漁業盛んな頃には、多くの人々が住み、小中学校、旅館もあったようですが、今は廃校になり、民家も廃屋が目立ちます。宿も民宿 2 軒のみとなりました。小中学校がありませんので、若い人、生徒はいません。ワカメ等の海藻類、船での魚獲り等の元気な高齢者が住んでいます。島内には千石積渡海船板図のある奥津比咩神社等の神社が 6 ヶ所あります。店は島内に一軒もなく、港に飲物の自動販売機があるだけです。また電話は NTT の電波塔がありますので NTT のみ通話できます。自動車は診療所に 台あるだけで、島民は自転車、多くは後輪上に荷台がついた三輪車

に乗っています。畑・田んぼはありません。それでも草原に以前に栽培した名残のアスパラガス、林の中にツワブキが生えていますので、島民の方は採取されているようです。民宿のおかずで出ることもあります。舢倉島は海女漁、磯釣り、鳥見で有名な場所です。また島には縄文式の出土した古代遺跡もあるようです。

**舢倉島での鳥見の留意事項：**島に渡るには 1 日 1 便の定期船に乗りますが、風が強い 波が高い 視界が悪いという条件が 1 つでも該当すると船が出ません。船が出なければ輪島の宿泊日数が多くなり、島に行くことを断念することもあります。また島に渡ることが出来ても帰りの船が出ない時には、輪島に帰ることが出来なくなります。帰宅後すぐに大切な会合出席は出来ませんので、余裕を持った計画が必要です。無事、島に渡っても店がありませんので、宿泊初日の昼食、お菓子等は輪島で買って持って行きます。この島には蛇が殆どいませんので叢に入っても大丈夫ですが、春の鳥の渡りの時期には野原のイラクサの葉にドクガの毛虫が大発生している場所がありますので、毛虫に直接触れなくても、毛が衣服に付きますと、敏感な人は皮膚が赤くなり痒くなります。民宿に帰ってきた時には玄関で衣服をはたき毛虫又は毛を落とすことが必要です。また夕方、木の茂みではヌカカという 1.5mm 程度で生物界最速の毎秒 1,000 回はばたく吸血昆虫がいます。磯や林に生息し、刺咬された直後は刺された感触もなく殆ど痒みはないのですが、翌日以降に腫れと痒みが起こり、小さな水ぶくれが出来ることもあります。完治まで 1 週間以上かかることもあります。皮膚科の診察が必要となります。応急策として抗アレルギー・炎症薬、ステロイド薬の塗布をします。それよりも刺されないように外に出る時は、肌の露出部が無いようにし、念のためディートを配合した虫除けを塗り、携帯型蚊取り線香もつけるようにします。また顔も覆うことが出来る防虫ネットを帽子に付けます。羽田から能登空港まで飛行機に乗る時

には、防虫スプレー缶、火器は没収になる恐れがありますので注意が必要です。さらに宿周辺でムカデが出ることもあります。ムカデは虫を捕えるため夜這い出して来るのですが、毒あごに咬まれると、数日間腫れと痛みが引かないので、体から離れている時捕えるのがコツです。咬まれたときは抗ヒスタミン含有ステロイド軟膏を塗ります。症状がひどい時は島の診療所に行くこととなります。以上色々留意事項を書きましたが、準備を十分すれば、日常生活の繁雑から隔絶され毎日鳥見三昧で楽しく過ごすことが出来ます。

### **実際の鳥見：2014年5/12-5/20の鳥見**

舳倉島に多く鳥見に行ってみえる本会会員の大久保さん、浅野さん、仲澤さんからのお誘いがあり、私は初めての舳倉島に行くことが出来ました。連休後の5/12上野駅より22:10の金沢駅行きの夜行バスに乗り5/13の7:10amに金沢に到着しました。午前中はタクシーに乗り河北潟でケリ、チュウシャクシギを、県民の森でコサメビタキ、アカハラ等を探鳥し、金沢駅に戻り、14:35の輪島行きの高速バスに乗り16:51輪島着。輪島の民宿に泊り、5/14の9:00am発一日一便のへぐら航路の定期船に乗り、10:30amに舳倉港着。民宿に着き持参の昼食を食べた後、午後から夕暮れまで探鳥をしました。それから5/19の出発まで丸5日間終日、鳥見の生活に入りました。島中央の防風林では、アオジが盛んに囀り、ツツドリが松の枝にとまり、海岸ではコムクドリ、イソシギが、民宿前の草原ではカワラヒワに混じってコホオアカが餌を啄み、林の中の水場ではキビタキ、ムギマキ、シメ、アトリ、ツグミが見られました。5/15は14:00から雨模様のため朝から午後の初めまでの探鳥でしたが、防風林でカッコウ、ピンズイ、サメビタキ、ブッポウソウ、アリスイ、ジュウイチが、海岸でチュウシャクシギが、水場でセンダイムシクイ、アトリが見られました。翌5/16は天気が回復し、防風林でサンショウクイ、エゾビタキ、センダイムシクイ、ツツドリ、タシギ、シメが、藪の中でシマゴマ、ヨタカが、海岸でアマツバメ、セイタカシギが見られた。5/17は松林でブッポウソウ、疲れ切った様子で枝にとまるヒレンジャク、水場でコルリが、海岸でアマサギ、イソシギ、キセキレイ、(台湾)ハクセキレイ、ツメナガセキレイ、ヘラサギ、タカブシギ、トウネン、アオアシシギ等が、草原でホオアカ、ベニヒワが見られました。5/18は防風林でチゴモズ、アカモズ、ブッポウソウ、水場でオオルリ、カシラダカ、コルリ、草原でカラフトムジセッカ、アカマシコ、海岸でヘラサギ、ミサゴ、イソシギ、コシアカツバメ等が見られました。5/19午前中に草原のグミの木でチョウセンメジロ、海岸、漁港でウミネコ、オオセグロカモメ等が見られました。舳倉島14:00発の帰りの船に乗り15:30輪島に帰りました。途中でオオミズナギドリが海面すれすれに飛ぶのを見ました。輪島より高速バスに乗り金沢駅へ、金沢駅22:00発の夜行バスで5/20の6:38am上野駅へ到着。輪島、河北潟、県民の森および舳倉島で見た鳥は90種類でした。

### **2015年5/19-5/25の鳥見**

今回は本会会員の池田さん、津村さん、および石塚さんと行くことになりました。このメンバーは昨年初めていった私以外は初めての舳倉島のためと新幹線が使えるようになったため、出発数か月前の2/24に参加者が集合し、舳倉島の状況、又カカ防止策、行き帰りの方法、宿等を話し合い、行きは羽田より飛行機で能登空港まで行き、そこからタクシーで輪島まで行くことし、舳倉島からの帰りは輪島から金沢駅より高速バスで、金沢駅から上野駅まで新幹線で帰ることにしました。

5/19 羽田 14:55 発、能登空港 15:55 着、16:30 頃宿に入る。まだ陽が高いので、輪島の町で夕食を食べに行きながら散歩することにした。そこで輪島のトキの情報を得るのですが、そのことは会報 No.246 に記載しましたのでそちらをご覧ください。輪島川から輪島港の散歩では多くのウミネコ、ハシブトガラス、トビが、我々の居る川の上をミサゴが飛び、イワツバメ、ツバメも飛んでいました。輪島港近くの森にアオサギの巣がみえました。輪島港まで行って港近くにいる人に聞くと風が強く今日は船が出なかった。明日船が出るか判らないという。5/20 朝食後 7:00am へぐら航路に電話すると「沖止め」という。何のことが判らず船が出るかどうか聞くと出るという。宿からタクシーで輪島港に行き、輪島港 9:00am 発の船に乗り、10:30am 舳倉港に着きました。この後 3 日間船が出ず、我々は予定の 5/23 には輪島に帰れず、風の収まった 5/24 船に乗ることが出来ました。我々と同じ日に舳倉島に渡り午後の船が出ず、日帰り帰る予定の人も、3 日間船が出ないため帰ることが出来ませんでした。ここで「沖止め」とは島に着くとすぐに輪島港に向かう客を乗せ出港することで、予定の 15:00 には船が出ないということと合点がいった。5/20 午後から 5/24 午前中の丸 4 日間 朝食前、朝食後、昼食後 1 時間昼寝した後の 1 日 3 回周囲 6km の島を歩き、防風林、草原、岩礁、漁港周辺の景色を楽しみながら探鳥することにしました。5/20-5/22 は風が強くあまり鳥が見られませんでした。それでも、5/20 には防風林でホトトギス、ツツドリ、カワラヒワ、ウグイスの囀りを聞きましたが、昨年、盛んに囀っていたアオジの囀りは殆どありませんでした。サンショウクイ、イカル、コサメビタキも見られました。海岸ではキアシシギ、アマサギ、チュウサギ、ウミネコ、ハクセキレイ、キセキレイが見えました。海岸線を歩いていくと数人の人が何かを追いかけている。聞くとイワミセキレイとのこと。丸い石のころがる海岸から叢に歩いていくセキレイと模様の違うイワミセキレイが見えました。セキレイが腰と尾を縦に振るのに、この鳥は横に振ります。追いかけている人の話では、これだけを見るのに鹿児島まで撮影に行ったことがあるという。珍鳥のようだ。アカアシヒレアシシギも観察できた。5/21 には海岸でイソシギ、トビ、ショウドウツバメが見られた程度、防風林でチョウゲンボウ、ツグミ、ノゴマ、ジョウビタキ、サメビタキ、エゾビタキ、オオルリ、ムギマキが見られました。5/22 には防風林でキビタキをやっと見ることが出来ました。昨年はキビタキ、ムギマキは嫌になるぐらい多く出たのに今年は少ないようです。海岸では(タイワン)ハクセキレイ、ダイサギ、カワウが見られた程度でした。5/23 は少し風が弱くなってきたようですが、朝、民宿のおかみさんから「今日は結構(欠航)な日です」と言われ、本日帰る予定が舳倉島にもう一泊泊まることになりました。やっと民家近くの電線に昨年多く見られたコムドリリの群れがとまり、海岸ではキアシシギ、ウミウとともに顔が赤くなったヒメウが岩礁上に見え、上空をハチクマ、チョウゲンボウが飛びました。防風林では松の木の上にカラスバトがとまり、水場ではコサメビタキ、メボソムシクイ、マミチャジナイ、ノゴマ等が見られました。少し鳥の数が多くなってきたようです。5/24 は風も少なくなり 15:00 発の船で輪島に帰れることになったので、それまで、舳倉島での最後の探鳥をしました。草原の径を一人でアマサギ、チュウサギの飛び姿を見ながら歩いていると防風林の松の木の上に大きな鳥がとまる。何だろうと思い見ると、柏市大津川近くで見たアカガシラサギではないか。近くには私を含め 2 人しかいないため、じっくり観察できました。また遠くの防風林で鳴くカッコウを島に来て初めて見ることが出来ました。更に民宿から岩場の方に迷鳥のアカ

アシチョウゲンボウがいるという。早速行ってみると撮影している人の先に電線にとまっている。その人が近づき過ぎたため海岸の岩場へ逃げ、とまる。さらに我々のいる電線にとまり、捉えた甲虫を美味しそうに食べているのではないか。おかげでじっくり観察、撮影できました。近くで枯枝にとまるシマアカモズも見えた。上空には風があまりないため、上昇気流に乗れないハチクマの群れが島周辺を巡回していました。今までは秋のタカの渡りを乗鞍高原の白樺峠でよく見ていましたが、今回は春のタカの渡りを観察出来ました。だんだん船の時刻がせまってくる中、最後に防風林の中の水場に行ってみることにしました。そこで、マミチャジナイ、マミジロが出、最後になんと幸運にも数少ないマミジロキビタキまで登場してくれました。今回は初めの3日間は強風のため、あまり鳥の出が良くなかったのですが、風の収まった後半の2日間は鳥の出が良くなったようです。昨年、連日見られたブッポウソウ、ヨタカは今年見られず少し寂しい思いをしました。15:00 舳倉港から定期船に乗り、16:30 輪島港着き、民宿で荷物を部屋に置き、輪島にいるトキを日没後まで観察しました。5/25 民宿の朝ご飯前にもトキを観察しました。この時の詳細は会報 No.246「輪島で本州に3羽しかいない放鳥トキに会えました、ラッキー！」を参照ください。トキの居る水田の周りでは、ホトトギス、ウグイス、オオヨシキリ、コジュケイの囀り、田の上をセグロセキレイ、ツバメが飛んでいました。小学校の林でイソヒヨドリが5羽位群れていました。今回、舳倉島、輪島での探鳥では63種の野鳥を観察出来ました。漆器会館に寄り、輪島から金沢には高速バスで、金沢駅から上野駅には新幹線で帰りました。

### 舳倉島での鳥見の楽しみ

舳倉島での鳥見は ツグミのような冬鳥、カッコウ、キビタキのような夏鳥に同時に会えること、冬、雪の山でしか会えない鳥ベニヒワ、また、イワミセキレイ、マミジロキビタキ、アカマシコ、シマゴマのようななかなか会えない鳥に会えること、アカアシチョウゲンボウ、チョウセンメジロ、カラフトムジセッカ、シベリアムクドリのような外国の鳥にも会えること、輪島港と舳倉島の間七ツ島周辺でオオミズナギドリ、アカアシヒレアシシギの大群のような海洋性の鳥にも会えること等で4-5日探鳥三昧でも毎日、日替わりで新しい鳥が観察出来、飽きません。今回のように輪島のトキのような特別天然記念物にも会えるハブニングがあるかもしれません。面白いことには我々がいつも見ているスズメ、ムクドリは舳倉島では見られません。スズメは非常に稀で、3月下旬から6月中旬にかけて1~3羽くらいが断続的に現れては消え去っているようです。この島には人家があり人が住んでいますので、スズメが生息していても不思議でないのですが、スズメが1つの個体群を維持するには最低20つがいが必要で、スズメの寿命はおよそ2~3年であることを考えますと、毎年13~14羽の新個体の補充が必要となり、一時的に入っても留鳥としてこの島に留まることが出来ないようです。この島の集落は小さく一つしかないこと、耕地が全くないこと、冬の自然条件が厳しいこと等がスズメの生息を不可能にしていると思われる。他に本土より1,500km離れた小笠原の父島、母島、南西諸島の西表島にもスズメは見られないようです。なおムクドリは7月には見られるようです。以上は春の渡りですが、秋の渡りもありますので、機会があれば行ってみたいものです。のんびりと鳥見をしていますと島の岩礁、浜、港等なかなか良い景色ですが、足元を見ますと浜岸特有の野草の花も咲いています。海岸には淡紅色のハマヒルガオ、紫色のハマエンドウ、黄色のミヤコグサ、コウゾリナ、岩場には白い花のスナビキソウ、ハマボッス、

ハマハタザオ、ツメクサ、ハコベ、北日本には海岸沿いに群生するアサツキの花が咲き、草原には背が高く白い花のオオハナウドが多く、時にはアオジ、ウグイス等がとまったりします。草の中に美味しそうなアスパラガスの新芽が出ています。島の人々がこれを摘んでオカズとして食べています。アスパラガスは地中海東部原産で、食用として日本には明治時代に入ってきた野菜ですので、島に多くの人々が住んだ時に畑として開墾しアスパラガスを植えた名残なのかなと思いました。防風林に入ると、ハリエンジュ ニセアカシア、カジイチゴの白い花が見られ、園芸種のツルニチニチソウの薄紫の花が咲いています。また半日蔭の海岸の崖、林の中にツワブキの葉が見えます。この島にはフキが無いので、その代わりに茎を摘み食べるようです。また民家の近くの草原にはグミの木が植えられており、淡黄色の花が満開です。ここには蜜を吸いにメジロの群れ、それに混じってチョウセンメジロが見られることがあります。花を見るのも楽しいものです。なお、2016年春も池田さん等と舩倉島に鳥見に行こうと思っています。舩倉島に興味を持たれた方は一度訪れてみてください。なお記載にあたり次の文献を参考にしました。

郷土資料事典 17、石川県 人文社 1997年

上村清、暮らしのおじゃま虫 井上書院 1986年

梅谷献二、野外の毒虫と不快な虫 全国農村教育協会 1998年

佐野昌男、信州の自然誌 スズメ 信濃毎日新聞社 1988年

## 訃報

当会会員OB(元顧問)の西巻実さんが8月11日にご逝去されました(享年92歳)。西巻さんは事務局業務を長年務められるとともに、後進の探鳥指導に当たられ、更に当会の写真データベースへの写真の提供、取り纏め、整理に精力的に取り組まれ、当会の発展に尽力されました。

ここに故人のご冥福を心よりお祈りし、謹んでお知らせいたします。

### 故西巻さんを偲ぶ

大野眞澄

「善き人は皆逝けり、されば残りし我らは…」

私が、我孫子野鳥を守る会に入会したのは、1987年の春のことだったでしょうか。その時に、言わば「同期」だったのが西巻さんでした。

現役時代を新潟で過ごされ、ご退職後に我孫子に住まいを移されたとのことでしたが、新潟時代に趣味としておられた海釣りが難しくなったので、鳥見の世界に興味を持たれたとのことでした。いかにも「理系」といったクレバーな物腰が印象的でした。

何の趣味でもそうだと思いますが、ビギナーのうちは何でも面白くて夢中になるものです。そんな時期を共有できた、まことに貴重な友人であったと思います。丹沢の夜のコノハズクの声、伊良湖岬のサシバの渡り、等々。目を閉じれば未だ生々しく思い出が蘇ってくるような気がいたします。

その後、我孫子野鳥を守る会の事務局長の重責を担われ、会の発展に多大な功績を

果たされたことはここに書くまでもありません。正に「巨星落つ」というべきでありましょうか。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 鳥 だ よ り

今号は夏から秋に向かう季節の鳥だよりです。東南アジアから渡ってくる夏鳥のツツドリ、センダイムシクイが観察されています。ツツドリは例年同様に、秋の渡りに備えて手賀沼の遊歩道のサクラにつくモンクロシャチホコを食べていたようです。今年の初認は8月6日とかなり早い時期でした(例年は9~10月)。ツツドリが托卵する相手のセンダイムシクイも今年には2013年と同じ秋口の観察例でした。過去4年は4-5月に観察されています。秋を告げる囀りのモズの高鳴きは、なんと夏の盛りの8月1日が第一声でした。ここ6年で最も早い記録です。(2012年8/3に次ぐ:例年は9月)冬鳥のコガモがやって来ました。9月13日が初認日で、ほぼ例年通りの到着でした。

- |  |  |
|--|--|
| 7.23 [古戸] コシ判(1) 葎原の低い柳にと<br>まり囀る 鈴木静治                   | 船津登  |
| 7.26 [古戸] ホトキス(1) 河原の葎原で鳴く<br>鈴木静治                       | 8.18 [漁協棧橋] セイカシキ(2) 親1、若1<br>羽休め 野倉元雄                                   |
| 7.26 [古戸] コシ判(7) 葎原の柳、セイカワガ<br>ヲ、葎にとまり囀る 鈴木静治            | 8.18 [布佐平和台] 材カ(1) 公園の松林上<br>空を滑空 鈴木静治                                   |
| 7.27 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(4)<br>船津登                         | 8.19 [大森] トビ(1) 田の上空を滑空<br>鈴木静治  |
| 7.27 [片山(手賀の丘公園)] コサビヅク(1) 伊<br>ガの群の近くで小枝に止まる 船津登        | 8.24 [片山(手賀の丘公園)] ツツドリ(1) 木に<br>止まり、すぐ飛ぶ 船津登                             |
| 8.01 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] モ<br>ス(1) 樹上で高鳴き(初認) 桑森亮          | 8.24 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(5)<br>船津登   |
| 8.02 [蓮の群落付近] ミサゴ(1) 杭の上で静<br>止 野倉元雄                     | 8.24 [片山(手賀の丘公園)] センダイムシクイ(2)<br>木の中を動く 船津登                              |
| 8.03 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1) NR<br>船津登                      | 8.28 [片山(手賀の丘公園)] サバ(1) 木に<br>止まる 船津登                                    |
| 8.06 [岡発戸新田] トビ(1) 上空を飛ぶ<br>鈴木静治・船津登・間野吉幸<br>・池田日出夫・金子雅幸 | 8.28 [片山(手賀の丘公園)] コサビヅク(1) シ<br>ジュウガラと一緒に動く 船津登                          |
| 8.08 [手賀沼辺上空] トビ(2) 上沼1,下沼1<br>桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功          | 8.29 [遊歩道桜広場] ツツドリ(3) 採餌(桜の<br>木) 野倉元雄                                   |
| 8.10 [片山(手賀の丘公園)] トビ(1) 上空を<br>飛ぶ 船津登                    | 8.31 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2)<br>船津登   |
| 8.10 [片山(手賀の丘公園)] トビ(1) 木に止<br>まりヒレコと鳴く 船津登              | 8.31 [片山新田] チョウゲンボウ(2) 電柱に止<br>まる 船津登                                    |
| 8.10 [片山(手賀の丘公園)] ツツドリ(1) 桜の<br>木に止まり、すぐに飛ぶ 船津登          | 9.01 [遊歩道桜広場] ツツドリ(1) 羽休め(桜<br>の木) 野倉元雄                                  |
| 8.16 [片山新田先手賀沼] トビ(2) 14:11、<br>湖北台6丁目上空を旋回<br>飯泉仁・飯泉久美子 | 9.03 [遊歩道藤棚付近] ツツドリ(1) 羽休め<br>(桜の木) 野倉元雄                                 |
| 8.18 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(3)                                | 9.03 [岡発戸新田] ツツドリ(1) 沼岸の桜の<br>木で餌探し<br>鈴木静治・蒲田知子・船津登<br>・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸 |

- 9.03 [岡発戸新田] サバ (3) 沼の上空高く滑空する  
鈴木静治・蒲田知子・船津登  
・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸
- 9.03 [下沼田] ヲウケノホウ(2) 稲田の上空を飛ぶ  
鈴木静治
- 9.03 [下沼田] ヲウケノホウ(2) 上空でホバリング  
鈴木静治
- 9.03 [水道橋] ヒ (1) 稲田の上空を飛ぶ  
鈴木静治
- 9.03 [片山新田] ヒ (1) 農道の電柱にとまり鳴く  
鈴木静治
- 9.05 [手賀沼近辺] ヒ (3) 上沼 2, 下沼 1  
桑森亮・船津登・金子雅幸
- 9.05 [手賀沼近辺] ハヤブサ(1) 上沼 1  
桑森亮・船津登・金子雅幸
- 9.06 [光ヶ丘 廣池学園] カッコウ科 sp(1) 10:31、北側から南南西方向に渡去  
飯泉仁
- 9.11 [発作] ヲウケノホウ(4) 上空でハシブトガラスがヒンガ  
鈴木静治
- 9.12 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1)  
船津登
- 9.12 [片山(手賀の丘公園)] センダイムシクイ(1) 1ヶの群の近くで動く  
船津登
- 9.13 [片山新田先手賀沼] コガモ(1) 11:43、水面を移動(初認) 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.14 [片山(手賀の丘公園)] ツドリ(1) 桜の木に止まり、すぐ飛ぶ  
船津登・吉田隆行
- 9.15 [中峠] サバ (1) 飛翔  
松本勝英
- 9.19 [片山(手賀の丘公園)] ヲウケノホウ(1) 上空を飛ぶ  
船津登
- 9.19 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2)  
船津登
- 9.19 [布佐平和台] ヲウケノホウ(1) 高い鉄塔上で鳴き、後飛ぶ  
鈴木静治
- 9.20 [増尾] マカ(1) 13:45、上空を旋回  
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.20 [藤心] ヲウケノホウ(1) 14:10、墓地上空をハシブトガ  
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.20 [片山新田] ヒ (1) 15:31、高鳴き(初認)  
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.20 [片山新田] コガモ(2) 14:54、遊歩道したの草原から鳴き声  
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.21 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] ミサゴ (1) 飛翔から杭上に止まる  
桑森亮

- 9.21 [手賀沼遊歩道(岡発戸新田地先)] ヒナズ (10) 葎原、田圃、樹上、電線等で擬音を交え高鳴き  
桑森亮
- 9.21 [手賀沼遊歩道(上沼田地先)] コガモ(4) 葎原の中を移動(初認)  
桑森亮

今回寄せられた鳥の全種名  
アオサギ、アカハラ、アジサシ sp、アマサギ、イソシギ、イソヒヨドリ、ウグイス、エナガ、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オナガ、カイツブリ、カッコウ科 sp、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キセキレイ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コチドリ、コブハクチョウ、コヨシキリ、サシバ、シジュウカラ、スズメ、セイタカシギ、セグロセキレイ、セッカ、センダイムシクイ、ダイサギ、タシギ、チュウサギ、チョウゲンボウ、ツツドリ、ツバメ、トビ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ホシハジロ、ホトトギス、ミサゴ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヨシゴイ 計61種  
<番外種>カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉仁	140
飯泉仁・飯泉久美子	96
木村 稔	1
桑森亮	80
桑森亮・船津登・金子雅幸	22
桑森亮・船津登・金子雅幸・田中功	17
鈴木静治	212
鈴木静治・蒲田知子・船津登 ・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸	17
鈴木静治・船津登・間野吉幸 ・池田日出夫・金子雅幸	14
野倉元雄	44
平岡考	1
平岡考・齋藤武馬・浅井芝樹	1
船津登	93
船津登・吉田隆行	1
松本勝英	2
村井みとい	2

**【会員だより】(ab-yacho より)****【下沼田・発作のチュウサギ、アマサギ】** 2015.09.04 鈴木静治

水田の稲は黄金色になり、稲刈りはこれから始まろうとしています。

8/30 手賀川、下手賀川の合流する発作で、夕方 16:30-17:15 チュウサギを主体に、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギの罫が出来ているのをみつけました。

8/30 は 80 羽程度、9/1 は 120 羽程度、9/2 は 250 羽程度になっていました。

また 9/3、11:30 頃下沼田の稲刈りの済んだ田にチュウサギとアマサギの 150 羽の群れが見られました。チョウゲンボウ 2 羽の上空でのホバリングも見られました。

なおシラサギの罫入りは下水道終末処理場側の遊歩道から見ればシラサギに迷惑をかけることなく観察できます。お勧め時刻は 16:30 頃から 18:00 頃日没まで罫入りは続きます。罫の場所は 2 週間程度で移動することがありますので留意してください。また罫からの飛び立ちは薄暗い 4 時頃から始まりますので、日の出後に行っても数羽しか見ることが出来ません。

**【シラサギの罫】** 2015.09.13 村井みとい

本日夕方、昼間の探鳥会でみたサギの群れをもう一度見ようとして行ってみたところ、フィッシングセンター前船着き場(?)の葦原でシラサギの罫を確認しました。

16:30~18:00 頃まで、東西方向からダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギが、続々と集まってきていました。最初数えただけで 100 羽はいましたが、その後も増え続けてざっと数えただけでも計 300 羽は入っていたように思います。

(罫の一部がみえたのですが、まるでふわふわの綿帽子のようでした。)

また、ハクセキレイが、チュウサギにモビングをしているのも観ました。

(ハクセキレイのこのような行動を始めてみました。)

...今頃は今日の探鳥会でみられた一群も眠りについたことでしょうか。

**【Re: シラサギの罫】** 2015.09.15 松田幸保

この情報にもとづいて、昨日・今日と数名が観察に訪れました。

沼の水面すれすれに飛来するグループ、上空から落雁よろしく飛来するグループなどが見られ、なかなか見応えがあります。

前に鈴木静治さんから情報があつた手賀川下流のサギが場所を移したのかと思いましたが、今日は同時観察が行われて、手賀川下流にも 300 羽ぐらい飛来したそうです。

晴れている日の方が飛来時刻が若干遅いようです。17:00 頃からが見ごろです。

村井さん、情報をありがとうございました。

**【中峠にサシバ再来?】** 2015.09.15 松本勝英

今日、10 時少し前、犬の散歩の出しな、サシバ 1 羽飛翔を見ました。

既に、渡りの集合地点に行ってしまうと、ここ暫くは見えていません。

本格的な渡りの前に「ご挨拶」してくれたのかも知れないと勝手に感動しています。

**【鳥だより(サギの罫)】** 2015.09.16 桑森亮

昨日の早朝ウォーキングの際、5 時半頃、滝下広場近くの釣堀側遊歩道で、50 羽余り

のサギの群れがフィッシングセンター方面から飛んできて、西の方に去っていきました。

**【コガモの初認ほか鳥だより】**

2015.09.22 桑森亮

- ・滝下の釣堀付近で水面で休むコブハクチョウ 6羽が比較的高い声で鳴いていました。コブハクチョウは鳴管がなくて鳴かない鳥と思っていましたが、岸からかなり離れた水面から聞こえるほどの声でした。
- ・釣堀からピオトープまでの遊歩道で、日の出前までの間に、チュウサギが 111羽がフィッシングセンター畔方面から 10羽位の群れで次々と飛んできて、西の方に去っていきました。さながら、夜明けの雁行を見るようでした。
- ・上沼田の土手から、昨日と同じ場所でコガモ 13羽が小さな干潟で採餌しており、その後飛んで葭原に入りました。全てエク립スです。
- ・曙橋でゴイサギが 1羽杭上に、3羽葭原の上を飛び回り、サギの畔の葭原に降りました。ゴイサギも畔にしているようです。

**【Re：鳥だより】**

2015.09.24 松田幸保

桑森さんから報告のあるチュウサギ集団の早朝の西行がどこへ向かうのかが気になって、手賀沼のハス群落展望台（柏市）から観察してみました。  
飛んでくる数が少ないので、別の観察ポイントを探していたら、ふれあい緑道の手賀大橋から東へ 1.4km 地点の水田に 70羽ぐらいのチュウサギを発見しました。  
今朝あらためて確認したら、東から次々に飛んできて刈り入れ後の水田に降りました。落雁もどきの降り方で面白かったです、50羽ほどで数は減りました。

**会からのお知らせ**

**<野鳥サロンの運営について>**

「野鳥サロン」については、当会の目的を考え創立 50周年に向けた活動を趣旨に、2013年 7月からスタート、隔月に開催し、これまで 14回を数えています。現在は役員を中心に持ち回りで担当を決めて運営していますが、今後は、勉強会的なものを含め様々なテーマにより、開催時期にも拘らず、役員だけでなく一般会員も自由な申し出により開催できるよう、更に柔軟な運営を図ります。

「野鳥サロン」での情報提供や発表、会員同士の意見交換等を希望する方は、事務局にお申し出ください。ご相談のうえ、事務局にて日程や会場を調整し、会員に周知します。

**<新入会員紹介>** 鈴木 浩 （我孫子市在住）  
川上千里 （我孫子市在住）

ほーほーどり No.247 (2015年11~12月号)

発行 2015年11月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)